

芦城校下のまいぶんマニュアル

1. 芦城校下ってこんなところ！

地形／芦城校下は海に面した平野にあります。

もともと海だった場所が、約 5,000 年前の縄文時代中ごろから

約 2,300 年前の弥生時代にかけて陸地となり、ひとが生活するようになりました。

ぜひ授業で
紹介してほしい
ポイント！



年表に登場する遺跡その 1／八日市地方遺跡（日の出町・八日市町地方・こまつの杜）

おもな時代は弥生時代。教科書の小単元は「縄文のむらから古墳のくにへ」。

ポイント①＝米づくりとものづくりが盛んに行われた北陸を代表する巨大むら（右ガイド参照）。

ポイント②＝J R小松駅の東側、約 15 ヘクタールが遺跡の範囲で、その辺りは標高 1～2m 程しかありません。低い土地は米づくりで水田に水を引きこむのに適しています。

ポイント③＝ここで作られた小松産碧玉の管玉と新潟県糸魚川産ヒスイの勾玉のアクセサリーのセットは、日本海を経由して遠く九州にまで運ばれました。

ポイント④＝サイエンスヒルズこまつ ひととものづくり科学館の門の手前には遺跡の場所を示す標柱があり、館内 1 F エレベーター横には、ミニ出土品展示コーナーもあります。また、小松駅構内の観光交流センターKomatsu 九（ナイン）にも出土品が展示されています。ぜひご覧ください。

年表に登場する遺跡その 2／幸町遺跡（幸町）

おもな時代は室町（戦国）時代～安土桃山時代。教科書の小単元は「戦国の世から天下統一へ」。

ポイント①＝織田信長が天下統一を目指して活躍した時代の、鍛冶職人の工房や住まい。

ポイント②＝JR 高架沿いの道路の発掘調査で、金属をたたく台や鉄滓（金属を加工する時に出る“かす”）、フイゴ羽口（高温を出すために火に風を送る装置の部品）など、鍛冶をしていた証拠がたくさん見つかりました。

ポイント③＝近くには、北陸道（のちの北国街道）が通っていて、遺跡の周辺は交通の要衝となっていたと考えられます。



上空から見た幸町遺跡



芦城校下の遺跡



地形の説明



八日市地方遺跡紹介



幸町遺跡紹介

2. もっと知りたい芦城校下のれきしじまん

弥生時代・米づくりとものづくりの巨大なむら

ようかいちじかた

八日市地方遺跡

●遺跡のあるまち／日の出町、八日市町地方、こまつの杜

●キーワード／濠（ほり）にかこまれたむら、弥生土器、米づくり、石包丁、戦い、鉄器

北陸で見つっている弥生時代中ごろのむらの中でも最大規模をほこります。むらの中央には川が流れ、墓と住まいを分けるように濠でかこまれていました。遺跡からは、弥生土器、米づくりにつかわれた石包丁などの石器やくわなどの農具、管玉や勾玉などの装飾品、お祭りや戦いに関わるものがたくさん出土しています。平成 23 年には出土品 1,020 点が重要文化財に指定されました。

平成 29 年の北陸新幹線延伸に伴う石川県の調査では、紀元前 250 年頃の柄付きの鉄器（鉄製ヤリガンナ）も見つかり、完全な形の発見としては東アジア最古と考えられています。



むらを囲む濠（ほり）の発掘



弥生土器



石包丁



くわ



たて



田げた



炭化米



管玉と勾玉



紹介ムービー
(YouTube)



きね



魚の形につくられた木の道具



物語絵本
(PDF)